

特別賞



設計担当者

城戸崎博孝

東京建築士会、城戸崎建築研究室

戸建住宅(専用) | 東京都大田区

洗足池の家 / MONOLITH

構造 | RC造

階数 | 地上2階、地下2階

敷地面積 | 324.94㎡

建築面積 | 110.34㎡

延べ面積 | 388.42㎡

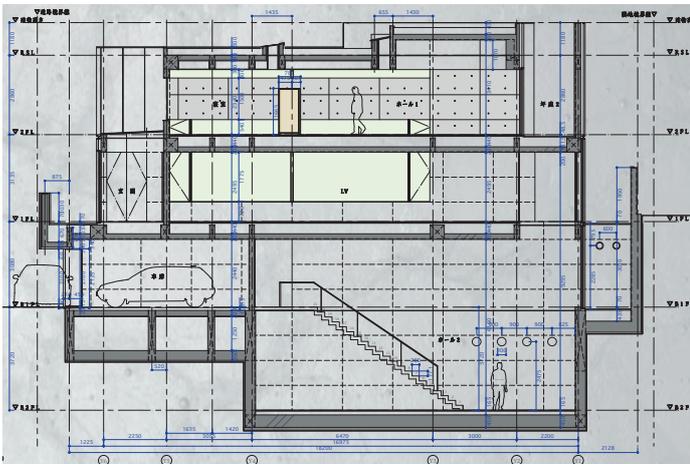
竣工 | 平成28年9月30日



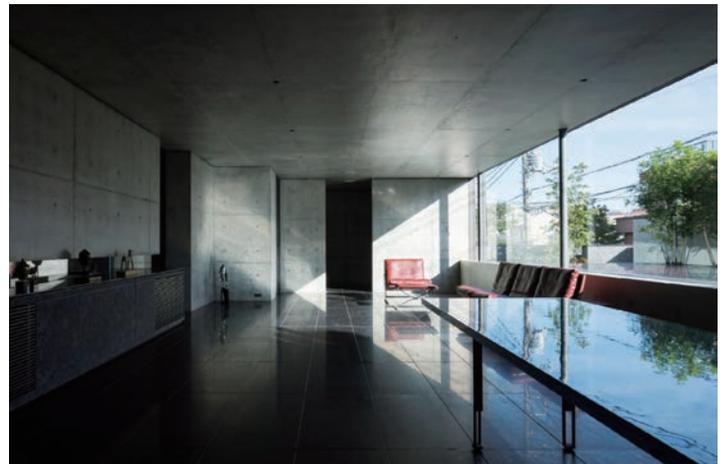
1



2



矩計図



3

1 東側街路からの外観 2 地底の間 3 リビング
写真…©Junji Kojima/ 45g photography

選評

美術館のような緊張感と静けさ、生活感が一切感じられないこの建築を住宅として評価することが適切なのかは議論があるところであろう。ヴォリュームを細分化し、すべての開口を注意深く制限して近隣に配慮した「社会性」、も、外断熱の環境配慮や完全に隠蔽された設備や居住性も、この建築の主題ではありえない。建築は環境の中に存在し、大地と天空を結ぶただ中において、光の中で未来に対して確たる影響を発信する「MONOLITH」、であるとする建築家の強い思いが、この建築の隅々を創り上げている。

コンクリートと石、金属とガラスに絞られた材料、それらの目地幅とそのつながりに気を配り切ったディテールは秀逸であり、その目地の中に

組み込まれた通用口のスライディング扉や荷物用搬送機を利用した特注の昇降機、リン酸処理の結晶柄にあわせた特注塗装のスイッチコンセントやシャワーノブ、ガラスエッジから光を拡散させたLED照明などなど、うれしくなるような強い意図と熟達の技術、こだわりの集積がこの建築を覆っている。

これは建築家が自身の哲学を実現するため時間と費用を気にせず実現した、まったく私的であらゆる批評を超えた特別なケースとはいうものの、それゆえにあるいはその状況を超える強い感銘を受けたのは、案内いただいた76歳のなお凛々しい建築家の、じつにうれしそうな姿が建築の限りない楽しさを改めて思い出させたからであろう。(櫻井 潔)